



委員の選出に、ひと工夫必要では

岐阜市都市創造会議座長報告を聞いて

8月17日、岐阜市都市創造会議の6分野創造会議を踏まえて分野別報告と各座長の報告が実施されました。松原のりかずは、一部を傍聴させて頂きました。

貧困の連鎖を解消するには、「実態を把握した」子育て支援を

分野「子育て」の座長報告を傍聴させて頂き、思いました事があります。座長の提起は「ひとり親世帯(こども)」への支援として、現在存在する「子どもの生活・学習支援(家庭訪問型)」と「寄り添い形学習支援(集合参加型)」の他に、新しく「インターネット学習支援(個別指導型)」の開発を発言されました。子どもさんに、支援型への「選択肢」を用意するとの発案です。

母子世帯の全国平均収入は、181万円

創造会議提出資料によれば、全国資料では母子世帯のパート・アルバイトの率は47.4%(正規39.4%)で、平均年間就労収入の母子世帯の統計数字は、181万円です。平成23年の国民生活基礎調査では、児童のいる世帯の平均所得金額は681.1万円であり、母子世帯の貧困度合いが確認できます。

岐阜県の母子世帯の平均収入は189万円です。全国平均と比べ少し多いですが、月6,700円ほど高いだけ。岐阜市の子どもの貧困率に関する統計数字はありません。

パソコンを購入し、インターネット使える環境に、今、母子家庭あるか?

現在、就労には携帯、スマホは必需品で、通信手段がなければ就職も出来ません。年間所得181万円でも、スマホを所持し、NTT等へ通信費を支出し、一方家庭では子どもにパソコン端末を買い与え、インターネットの通信費も準備出来る母子家庭は多く存在するのでしょうか? 提案が、経済実態と遊離した閃きになっていないでしょうか?

貧困世帯を孤立させない取り組みを優先すべきでは・・・

ひとり親世帯の「親と子どもを孤立させない」取り組みを大切に、と思います。「寄り添い型学習支援(集合参加型)」で、子どもと親の何でも相談できる場所、環境を創造することが優先されるべきでは? と思います。

岐阜市には子どもの貧困に関する基礎データがまだありません。以前質問しました時に「岐阜市には無いです」との回答でしたが、市内の環境を把握することからがんばるべきでしょう。統計調査へのアドバイスを頂ける先生をお願いすべきでは?

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500



やましろひろじ

山城博治さん 沖縄の闘いを語る

8月18日・デモ19日

18日、戦争をさせない・9条壊すな！岐阜総がかり行動実行委員会主催で、山城博治さん（沖縄平和運動センター議長）の講演会が開かれました。会場ワークプラザには200名の参加でした。無所属クラブからは、服部代表、田中議員、松原のりかずが参加。沖縄での反基地・平和運動の現状と、5ヶ月間の超長期勾留弾圧との闘いに耳を傾けました。

この長期勾留は国際的にも「運動の弾圧目的」として批判され、本年6月ジュネーブ国際人権委員会に山城さんが出席しています。翌19日は、毎月の金公園集会和デモに山城さんも参加頂きました。田中まさよし議員、松原のりかずも参加し、市民へ平和と、もり・かけ問題、安倍政権退陣を炎天下200名のデモ参加者とともに訴えました。

雨漏り27回のメディアで「設計者の本売れ」と・・・

都市創造会議座長報告の最後の発言が、これです。「有名な伊藤さんの設計のメディアコスモスに来て、買う物が無い。伊藤さんの本をここで売れば買って行くので、消費を促し、地域に還元できるのでは」市民交流分野の座長。完成検査以前の雨漏りを入れれば30回を越すかもしれない不良品。開設記念の講演に来岐へも、「講演料を貰っているのか」との批判の声がある。27億円の最終払い金を受け取りながら、いまだ雨漏りが直らない。戸田建設は、暗に設計の不備をほのめかしている。設計者の責任は重大だが、座長は新聞を読まれているのだろうか？ 岐阜市の部長は優秀な方々ばかりだが、アドバイザーは？ 提言の丸呑みの前に・・・



※ 戦争をさせない実行委員会パンフより

